

変わる働き方

日立システムズ

安心してがん治療と仕事両立

制度・サポート体制整備

日立システムズは、がんになっても従業員が安心して働き続けられる職場づくりに取り組む。治療と仕事が両立できる制度やサポート体制、復職支援プログラムを整備する。国立がん研究センターの統計によると、2人に1人ががんを発症する時代。企業ががんと向き合うことは人材確保の面から見ても重要なテーマになっている。

同社では、がんと就労について考える「がん予防と早期発見セミナー」を全国の主要拠点で従業員向けに実施している。2017年11月に開始し、これまで累計300人以上が受講した。同社担当者は「セミナーでがんの知識を深めることはもちろん、心身の健康を相談もできる保健師の存在も周知する機会だ」と話す。19年はグループ会社にも範囲を広げて実施する予定。

がん対策には早期発見・治療も重要となる。18年7月には全従業員の自宅へ「がんのオプション検査メニューと補助制度」を案内する手紙を郵送。従業

員と家族にがん検診の受診を促す。健康診断の際には早期発見につながる各種オプション検査の受診を従業員だけでなく、家族を含めて補助している。

18年度の新入社員全員には、胃がんなどを引き起こすピロリ菌の感染検査を取り入れ、胃がん発症リスクの早期発見にもつなげている。今後はオプション検査受診率の向上・感染症対策など発症リスク低減に向けた対策も検討していく。

18年8月には厚生労働省が推進する「がん対策推進企業アクション」の推進パートナーとして参画。がん対策の推進に力を入れ、いきいきと働く多彩な人材の創出につなげる。（水曜日に掲載）



乳がんの触診モデルを試している従業員